

ビジネスプランコンテストで 選ばれた「優秀プラン」を発表

(企)S・R・D

企業組合S・R・D(高橋則行理事長、組合員4人)は、群馬県が中小企業の新しい事業展開などを応援するため実施する「ビジネスプランコンテスト」において優秀ビジネスプランに選定され、1月28日前橋市・群馬産業技術センターにおいて発表会を行った。

本組合のビジネスプランのテーマは「重度障害者、知的障害者のための意思伝達装置『話想(はなそう)』の開発と拡販」。意思伝達装置とは、体の不自由な患者が、



プレゼンを行う高橋理事長

体の可動な部分を用いて簡単な操作で意思を伝えられるようにするための機器。しかし、当該機器は高額であるため、本組合と大学の共同研究で筋委縮性側索硬化症(ALS)の患者向けに意思伝達装置を開発。今回のプレゼンテーションでは、今後、知的障害児や難病の幼児・児童教育に対応できる新機能の開発・改良を進め、子供たちの可能性を活かせるようにするという計画を発表した。

グループワークによる 講習会開催

群馬県蒟蒻原料商工業(協)

群馬県蒟蒻原料商工業協同組合(上原康廣理事長、組合員24人)では、1月30日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において「チームで新しいアイデアを生み

出す技術」をテーマに講習会を開催した。講師はビビットコンサルティング代表で中小企業診断士の飯島宗裕氏。参加者はグループに分かれ、グループワーク形式で研修は進められ、ブレインストーミングを行うなどチームでアイデアを出し合うスキルを学んだ。



グループワーク形式による研修

飯島氏は、新たなアイデアを生み出すには「ゼロベースで物事を考えることで固定概念が外れる」と説明し、「固定概念の打破が営業の新たな可能性を開く」と述べ、日常的に問題意識を持つことが大切とアドバイスした。

創立50周年記念式典開催

群馬県菓子(工)

群馬県菓子工業組合(高野博道理事長、組合員238人)では、

2月3日、前橋市・群馬ロイヤルホテルにおいて「創立50周年記念祝賀会」を開催し、組合員・来賓・関係者ら110名が参加した。初めに高野理事長が「今後、組合を取り巻く環境は益々厳しくなるが、次代に引き継ぐために少しでも前に進み、次の50周年、100周年に向けて努力していくことを誓う」と主催者挨拶を述べた。



挨拶を述べる高野理事長

次いで、来賓として臨席した、群馬県農政部長宮崎一隆氏、本会専務理事中山正司、群馬県商工会議所連合会会長曾我孝之氏、全国菓子工業組合連合会専務理事山本領氏、全菓連関東甲信越ブロック会幹事長面澤義昌氏が祝辞を述べ、組合の功績を称えるとともに、50周年の節目を祝った。また同日、参加者には『創立50周年記念誌』が配布された。